

審査結果

第2回千葉県富津市大塚山周辺人工地層環境修復科学技術審査会

日時：平成18年7月31日 15:00—16:30

場所：千葉市文化センター第2会議室

審査会長 熊井久雄（大阪市立大学名誉教授）

委員 床次正安（東京大学名誉教授）

委員 藤巻宏和（東北大学教授）

委員 高嶋 洋（理学博士：野田市役所技師）

委員 高江 満（弁護士）

1. 最終処分場の漏洩問題を、NPOが中立性・科学性の立場から、情報公開を前提に調査・対策・審査の依頼を受けた。こういった調査等をNPOが受託するのは、全国初である。これは千葉県のNPO対策推進の成果であり、依頼した企業の見識も評価できる。行政・企業・NPOの3者は、一定の緊張関係をもって、この問題の解決に当たるように努めること。また、NPOはこの全ての事業会計を明らかにすること。
2. この最終処分場の設置場所は、全国的に見ても岩盤遮水の可能な優良適地であり、また適正管理もされてきている。しかし、処分場内の既存 No.2 観測井で、規制対象外物質である塩分濃度の上昇現象が認められる。これは、薄い地層の一部を通して漏洩した現象と思われる。
3. 当該最終処分場の既存 No.2 観測井のスクリーン（井戸管に地下水を通す穴が多く開いている部分で、帯水層に接している部分）は適正な地層単元に設置されていない。この観測井のスクリーンは無単元設置（地質環境学的には科学的でない）であり、真の環境対策を議論するには不適格である。
4. 現在、既存 No.2 観測井に代わる適正透水層単元スクリーンを持つ3本一組の地下水観測井（Ow-1-No.2）を設置中である。その他の10箇所についても3本一組の地下水観測井の設置を早急に行い、第2処分場下流の透水層単元毎の地下水流動系・塩類移流系を明らかにすることが重要である。
5. 漏洩防止の応急対策試験用井戸群の設置を早急に実施し、その基礎資料を基に漏洩防止対策井戸群を配列し、応急対策・恒久対策をとるべきである。
6. 大平興産敷地外では、生活環境（法律解釈上の人の飲み水など）への影響はないと思われる。